

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するかが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

* ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点

- 1 見当
- 2 童謡
- 3 慶弔
- 4 滞在
- 5 喪失

※解答通り

問二 各3点

- a ハ
- b ホ
- c ニ
- d イ

※解答通り

問三 8点 (模範解答例)

A 〇1点

魂という語の語源が

B 〇2点

「玉し火」であることは、

C 〇2点

魂は微光を発する球状で、

D 〇2点

尾を曳くという

E 〇1点

形態をそのまま示しているということ。

※A・B・C・D・Eに関して部分配点

A 「魂」という語の語源」(1点)

傍線部の「靈魂の語源学」の説明。

B 『玉し火』である」(2点)

「靈魂の語源」が①「玉し火」である説明。

「玉し火」「たましりひき」の可。

C 「魂は微光を発する球状」(2点)

「靈魂の形態」が②「微光を発する球状」である説明。

「微光を発する」または「球状」のいずれかのみは1点減点

「微光を発する」「火」いずれも可。

「球状」「球形」いずれも可。

D 「尾を曳く」(2点)

「靈魂の形態」が③「尾を曳く」という説明。

「尾を曳く」「尻尾のようなものを曳いている」いずれも可。

E 「形態を(そのまま)示している」(2点)

「(語源が)形態を示している」(2点)の説明。

問四 3点

冷

※解答通り

問五 4点

示される。

※解答通り

問六 6点 (模範解答例)

A ○3点

交感や共感以上の、

B ○3点

人と人との直接的な一体化をもたらす(意味。)

※A・Bに関して部分配点

A 「交感や共感以上」(3点)

「交感」または「共感」のみの解答も○

「交感」または「共感」のいずれも不記載は×

B 「人と人との直接的な一体化」

「直接的な」の不記載は1点減点

「人と人との」の不記載は1点減点

「一体化」の不記載は×

問七 7点

ハ

※解答通り

三 現代文 小説 (50点)

問一 各3点

(ア) ニ (イ) ロ

問二 9点

【模範解答】

犬屋で歓待してもらうのは、

(A) 2点

お金もかからず、

(B) 3点

犬好きなBにとって、

(C) 2点

嬉しいことに違いないという気持ち。

(D) 2点

【採点のポイント】

A 「犬屋で歓待してもらう」(2点)

○ 「犬屋へ遊びに行く」

○ 「犬を見に行く」

× 「知り合いの家へ行く」等、「犬」の指摘が無い場合、Aポイント0点。

B 「お金もかからず」(3点)

○ 「遊園地とは違って入場料や遊戯券を買う金もかからず」

△ 「入場料がかからず」のみ(1点)

△ 「遊戯券を買う金がかからず」のみ(1点)

C 「犬好きのB」(1点)

D 「(Bにとって)嬉しいことに違いないという気持ち」(2点)

○ 「(Bにとって)嬉しいことに違いないという気持ち」

○ 「(Bを)喜ばせたいという気持ち」

○ 「(Bに)愉しんでもらいたいという気持ち」

問三 6点

二

問四 6点

ホ

問五 6点

ハ

問六 9点

【模範解答】

犬に噛まれたことを

(A 1点)

Bに笑われて

(B 2点)

不機嫌になり、

(C 3点)

Bに対する配慮を失っている様子。

(D 3点)

【採点のポイント】

A 「犬に噛まれたこと」(1点)

○ 「犬がぶつかってってきたこと」

○ 「犬に歯を当てられたこと」

× 「犬が走り去ったこと」

B 「Bに笑われて」(2点)

○ 「Bが愉快そうにしているのを見て」

○ 「Bが面白がっていることで」

○ 「Bの笑い声がとまらないことで」

× 「Bが機嫌をとってきたことで」

× 「Bが『へんな犬だなあ』と言ったことで」

C 「不機嫌になり」(3点)

○ 「むっとして」

○ 「腹をたてて」

D 「Bに対する配慮を失っている様子」(3点)

○ 「Bの機嫌をとる余裕がなくなっている様子」

○ 「Bに対して恩着せがましい態度をとっている様子」

○ 「Bに対して自分の方が上であると見せつけるような様子」

○ 「Bに対して偉そうにしている様子」

× 「Bに対して卑屈になっている」

問七 各4点

ロ・ニ

四 漢文 採点基準

問一

- a よ(りて) 2点
- b も(し) 2点
- c すなわ(ち) 2点
- d し(む) 2点

※ひらがなでないものは×

※現代かなづかいでないものは×(「すなわ」が「すなは」になっている)

問二

a 3点

死体がある場所を知っていたのは、

b 4点

治長が殺したからではないか

c 不問

ということ(7点)

a 「何に縁りてか之を知らん」の要素 3点

※「之」は死体がある場所。

※「老婆の息子が死んでいることを知っていたのは」「老婆の子の死体のあるところを知っていたのは」「死体が老婆の子であるとわかったのは」など、「之」を「老婆の息子の死(体)」としているものは減点2点

b 「人を殺さざれば」の要素 4点

※「治長が」は「自分が」でもよい。

c 文末の「〜ということ」の有無は不問。

問三

B まさにこれをこころみるべし 6点

※漢字を交えているものはX

※「まさにこれをこころみるべし」「まさにこれをためすべし」以外はX

E ごくしゆ(ゆ)いまだしんぜず 6点

※漢字を交えているものはX

※「しんぜ」が「しんじ」になっているものは△減点3点

※B Eともに再読文字が取れていないものはX

問四

a 3点

治長笑ニ鳥語一。是似レ解ニ鳥語一。

b 3点

※それぞれ完答で3点入る。△はない。

※送り仮名のついていないものはX

問五 雀が何を言ったので笑ったのか 5点

※「雀が言ったことのがおかしかったのか」は△減点2点

※「雀たちは何を言っていたのか」は△減点2点

※「雀は何を言って笑っていたのか」「何を言われて雀は笑っているのか」はX

問六 ハ・へ(順不同) 各6点